

平成29年度学校自己評価及び学校関係者評価票

県立津名高等学校

学校評議員送付

学校全体の教育活動に対する4段階評価														(学校関係者評価)													
平成30年1月実施 教職員38名																											
4段階(4:よくできた、3:できた、2:あまりできなかった、1:できなかった)※学校全体ができているかを評価																											
学 校 評 価 項 目																											
領域	評価の観点	評価項目	NO	実践目標	今年度の 点数	昨年度 平均	増減	変化	今年度回答																		
									4	3	2	1															
学校運営	学校運営全般	校務分掌における取組み	1	各分掌の重点目標を設定し、取組みについて評価・見直しを行う。	3.29	3.13	0.16	↑	12	25	1		・教員負担の軽減に向けて、校務分掌内容のスクラップ&ビルドを是非実施していただきたい。 ・どうしてもよく動く特定の教職員に業務が集中する傾向があるので、新一年生のクラス数減にに合わせて大胆な改革をされることを期待する。 ・リボンプロジェクトの成果を受けて、今後も、アクティブラーニングに関する図書、防災関係も含めて生徒の調べ学習、また教職員の授業案作成に有益な図書の購入を計画的に進める必要がある。 ・各学年に生活面・学習面の目標を設定していることは、生徒にとっても大事なことである。相互に目標を意識して、学年によって格差があることも認めたい。そして、目標をどう達成しているかを知るスケール、あるいは尺度を明確にすると良い。たとえば、どのくらい時間をかけたか、何冊どんな本を読んだか。生活管理表を作るとかを提出してもらうのはどうかなどである。 ・もう少し校舎の見えないところも整理するべきである。 ・愛校心を持ち、100周年に向けての冊子の縮小版を1年生に説明したり、卒業生に話をしたりして学ぶことの意義を伝えても良いのではないか。														
	開かれた学校づくり	家庭地域との連携・情報発信	2	懇談会・面談・学年通信等の発行を行うなど、家庭との連絡を密にする。ホームページを充実させ、地域への情報発信を行う。	3.53	3.46	0.06	↑	21	16	1		・HPの更新や学年通信の発行回数を増やすことはとても重要である。教員だけでなく、生徒からの声もできるだけ掲載するように双方向性を持たせ、PTAの広報誌との相互乗り入れや部活動や校内ビブリオバトルの優勝者などへのインタビューの掲載も有効である。 ・家庭の連携を図るうえで、保護者の意識が学校の目標に向けて協力しあうことが不可欠である。それだけに保護者との面談が必要である。年に複数回行うべきである。地域貢献の度合いは、充分で良くできている。生徒たちがこれらの貢献により、どう成長したのかが評価となる。 ・生徒はよくあいさつをしてくれ、指導が行き届いている。														
		地域貢献	3	観藤会、ふれあいコンサート、音楽における中高連携、ボランティア活動等の活動において地域に親しまれる学校づくりを行う。	3.63	3.69	-0.06	↓	24	14																	
	生徒指導	生徒の自主活動領域の拡大を図る取組	4	生徒会や委員会の自主的な活動・取り組みを発展させ自立の意識を高める。	3.11	3	0.11	↑	7	28	3		・生徒の自主性・主体性を育むため、1年生入学時のオリエンテーション合宿をぜひ国立淡路青少年交流の家で開催していただきたい。 ・3年間の高校生活をどうデザインするのか、またクラスづくりのワークショップを取り入れるなど、寝食を共にしながら、短期間に一気にやってしまった方がより効率的である。 ・生徒指導、生活指導は誰のために、何のためにあるのか、アクティブラーニングの定着のためにも、新入生のオリエンテーションとかホームルーム等を活用し、参加型のワークを通じて生徒自身に考えさせていく方が良い。 ・生徒の主体的な活動が多様に展開されていることを評価する。各々の取組により、生徒たちは多くの技能を習得しているに違いない。 ・ルールを守れないと、様々なゲームも仲間とはできないはずである。反社会性の幼稚さを気づかせてゆくしかない。対人経験が希薄なのは、家庭の協力もいる。学校生活で孤立している生徒を引っ張り込む必要がある。読書活動の中で語らいの時間がチャンスである。 ・教師のカウンセリングの実習とか、互いに生徒対応の振るかえりも必要ではないか。 ・生徒会が中心となって活動することは良いことだが、他の委員や生徒をまきこんで活動を行う必要がある。 ・マナーを守れない生徒はどこにでもいるが、学校が生徒に歩み寄り、生徒が学校に歩み寄るような指導ができれば良い。 ・校則をどのようにして守らせるかが大切である。														
		校則を遵守し、マナーを向上させる取組	5	生徒の校則に対する意識を向上させ、自律的に守れるようにする。保護者と共通理解を深め、協力を得る。社会のルールや交通マナーを守り、健康・安全に生活を送れるように努める。	3.29	3.03	0.26	↑	12	25	1																
		生徒理解を深め教育活動に生かす取組	6	カウンセリングマインドをもって生徒と接し、面談機会を十分に設定し、内面的な理解をはかる。	3.29	3.26	0.03	↑	13	23	2																
	進路指導	進路指導体制の充実	7	進路指導部と各学年が連携をとり、組織的に進路指導を進める。	3.47	3.38	0.09	↑	18	20			・進路指導について、経験豊富な教員スタッフの実績を中学校や保護者だけでなく、もっと地域にアピールして、より強い信頼感を醸成することが肝要かと思う。 ・文理選択はガイダンスだけでなく、生徒に調べ学習(職業研究、学部学科研究)などの探究活動が不可欠である。 ・生徒自身はまだ人生の目的や進路について定かでないだけに、不安であろう。高大の連携は必要である。大学との交流も求められる。 ・大学訪問の機会を増やしてほしい。 ・学習指導や進路指導の研修を充実する体制づくり、時間設定も必要である。 ・大学でもバランスが良く、考えて判断できる生徒を望んでいる。高校でも同じである。 ・学校の進路実績などをアピールしてほしい。 ・目標を持たせることが必要である。 ・高校は職業選択の分岐点である。探究学習をすることが大切である。 ・様々な職業に触れる機会、情報を与えるべきである。														
		進路意識の向上	8	進路学習・ガイダンスを推進し、進路意識を向上させる。	3.53	3.26	0.27	↑	21	16	1																
	教職員の資質向上	計画性をもった研修の実施	9	教職員が研究授業や研修を行い、授業改善、学校の諸課題についての解決能力など実践的指導力の向上に努める。	3.11	2.92	0.18	↑	8	26	4		・研究授業を多くの教員が見学できるような日程、例えば成績処理も済んだ1・2学期の長期休業前の平日とかに集中実施し、全教科合同でポスターセッション的な評価会等開催してはいかがでしょうか。教科・科目は違っても、津名高生の抱える課題や生徒の学びへのアプローチの仕方には他教科の授業展開も大いに参考になると思う。 ・教師のための公開授業や、教師研修の機会に職員を派遣してほしい。 ・先進校の見学研修を継続的に取り組んでほしい。														
	教育課程	読書運動	10	「朝の読書運動」を通じて、生徒の心豊かな人間性、思考力、想像力、言語力などの育成をはかる。	3.37	3.26	0.11	↑	15	22	1		・「読書講座」「私の読書マラソン」「朝読」等の取り組みは素晴らしいと思うので、これからも継続してほしい。 ・発表会もできれば推進力となる。														
自ら学び考える力を育成する取組		総合的な学習の時間	11	総合的な学習の時間を通じて、自ら学び考える力や、探究活動に主体的に取り組む態度を育てる。	3.47	2.82	0.65	↑	18	20			・リボンプロジェクトの取組みは素晴らしい。やり残したことをそのままにせず、是非また職員研修等で改善のためのワークを実施していただきたい。 ・アクティブラーニングは学びでの生徒だけでなく、担い手の先生方も自ら主体的・対話的で深い学びに、探究心を持って職員間のグループワーク等を通じて取り組まれ、実践をつまれることが肝要かと思う。 ・リボンプロジェクトは面白いと思う。地域や時代の課題を考え、解決しようとする意気込みが感じられた。 ・リボンプロジェクトは学校外の人々に触れる良い機会だった。さらに、継続・発展を図ってほしい。 ・グループ学習では、成績の良い生徒が伸びる傾向にあるが、受け身で関わっている子のフォロー、対策が必要である。 ・企業の中でも、自分で考えて行動できる人が求められているので、このような取組は必要である。														
		体験的・問題解決学習	12	各教科において体験的・問題解決的な学習を展開する。	3.05	2.69	0.36	↑	8	24	6																
		適切なカリキュラムの作成	13	生徒の興味関心と進路に対応した適切なカリキュラムを作成する。	3.08	2.97	0.10	↑	7	27	4		・今後も生徒の興味・関心・進路希望に添うよう改善していただきたい。またその際、生徒のニーズだけでなく、将来を見据えたカリキュラムの構築という視点も忘れてはならない。 ・まだまだ生徒が受け身の授業風景が一般的だが、課題について生徒の取組や考えを養成していったほしい。														
基礎・基本の定着	授業計画の作成	14	年度当初に各教科で基礎・基本の定着を図る授業計画の作成と取り組みを行う。	2.95	2.92	0.02	↑	6	24	8		・アクティブラーニングの手法を取り入れた授業展開を推進するとともに、進路学習と併せて、「なぜ学ぶのか」を常に生徒に問うことも大切である。主体的・対話的で深い学びに生徒自身が取組む姿勢をはじめるには日ごろの学習生活のふりかえりを行い、保護者の意見も交えながら学校での生活と家庭での生活の両方を「見える化」していく取組みも必要である。 ・家庭学習が定着するためには、自分の時間管理が必要となる。 ・課題を与えないと何をして良いかわからない生徒には、学習範囲、教科書の何ページから何ページを予習して、自分なりに習得したことをクラス全体に発表させるのも良い。 ・思考力や様々な言葉を使って、工夫を試みることも大いに体験してほしい。 ・公開授業は、生徒のためにも役立つのではないかと。 ・津名高の立地条件は、津波や震災に強い。よって、避難してきた子供や大人にどう支援するかが問われるので、どのような支援ができるかを模索してはどうか。 ・前年度の取組がどのように反映されているか良いと思う。そして分析すればよい。 ・なぜ、年度学習がうまくいかないのか、時間がなかなか取れないかを考えていく必要がある。															
	指導形態の工夫	15	習熟度別授業、少人数授業を充実させ、個に応じた学習指導を行う。	3.32	3.13	0.19	↑	14	22	2																	
	家庭学習の習慣付け	16	自発的に課題・予習・復習など家庭学習を行う習慣を付ける指導をする。	2.76	2.56	0.20	↑	4	21	13																	
防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	17	生徒・職員の防災訓練、救急救命講習を行い実践的な安全教育を実施する。学校の実情に応じた「警備及び防災マニュアル」を作成し、定期的に対応訓練を行う。	3.24	3.33	-0.10	↓	12	23	3		・防災教育に明るい先生を中心に、生徒が作成した防災紙芝居の淡路市全域での普及活動や、淡路市防災センターとの連携など、津名地区の高台に立地し、いざという時に避難所としての機能を、教職員だけでなく生徒自身も担えるような、課題解決型防災教育プログラムづくりを進めてほしい。															
課題教育	人権教育・道徳教育の推進	人権教育・道徳教育推進への取組み	18	ホームルーム活動、教科指導、学校行事等を通して、あらゆる面で人権教育・道徳教育を推進する。	3.00	2.82	0.18	↑	6	26	6		・人権教育はいかに自分事としてとらえられる「心」を醸成するかが肝要なので、ここでもアクティブラーニングの手法は生きる。 ・いじめや虐待、不登校の兆しがないか、生徒自ら学び、対応策を考えるのはどうか。 ・プライバシーの保護についても考えていく必要がある。														
	設備・機器の利用	図書館・情報機器の活用	19	図書館を利用した調べ学習、コンピュータ、AV機器を利用した視聴覚教育等、指導方法の工夫・改善につとめる。	3.08	2.72	0.36	↑	9	23	6		・校内に留まらず、ビブリオバトルの各種大会、校内優勝者は全国大会等ヘントリーするなど、部活動と同じように遠征できる仕組みづくりをしてはどうか。 ・PCなどのIT関連機器は買い取り方式ではなく、リース契約にして常に最新機器に対応できるようにすべきである。 ・情報の授業は教職員だけに頼らず、外部人材、特に専門学校等に入学した卒業生を人材バンク登録させて、夏季休業中などにオープン参加の授業等課外授業としてIT機器の活用実践講座等展開すればよいのではないかと。 ・県の図書館の利用も良い。 ・図書費の拡充もお願いしたい。PC事務機もあわせて拡充して、ニーズに応えてほしい。														
	学校特色化	高大連携・外部講師の活用	20	大学や研究機関との連携を深め、教科や進路についての理解を深めるとともに、学力向上を目指した取り組みを行う。	3.39	3.28	0.11	↑	16	21	1		・神戸大学のESDの取組み、兵庫県立大学や吉備国大のCOC等の取組みに、積極的に生徒を参画させて、早くから大学生と共に活動する機会等を設けることも授業での学びをさらに発展させることにつながる。国立淡路青少年交流の家でも大学生と共に活動できるボランティア活動を展開しているので、是非ご活用してほしい。 ・インスパイア授業を個別化して、講師との自由な対話が促進できるように、学年単位からクラス単位に形態を改めていく必要がある。														
全 体					3.25	3.08	0.17	↑	251	446	63	0															
(H29年度学校自己評価のまとめ) ・今年度の自己評価(学校全体ができているかを4段階で評価)の全体平均が3.25であり、昨年度の3.08から0.17上がった。 ・今年度の自己評価の全体平均の高い評価項目は、家庭地域との連携・情報発信3.53、地域貢献3.63、進路指導体制の充実3.47、進路意識の向上3.53、総合的な学習の時間3.47である。 ・今年度の自己評価の低い評価項目は、授業計画の作成2.95、家庭学習の習慣付け2.76である。 ・今年度の自己評価の全体平均が昨年度の自己評価の全体平均を若干下回った評価項目は地域貢献-0.06、教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上-0.10である。 ・ほとんどの評価項目(20項目中18項目)において、今年度の自己評価の全体平均が昨年度の自己評価の全体平均を上回った。																											